
特別講座報告

音楽大学における

〈ソーシャル・アントレプレナー〉教育の重要性

安原雅之 愛知県立芸術大学音楽学部教授 (音楽学)

2017年度の音楽学コース特別講座は、カーティス音楽院のメアリー・ウィーロック・ジャヴィアン先生をお招きして、下記の内容で開催された。

音大生にとっての病院アウトリーチ：カーティス音楽院の場合

講師：メアリー・ウィーロック・ジャヴィアン (カーティス音楽院)

Mary Wheelock Javian (Curtis Institute of Music)

通訳：三木隆二郎

(愛知県立芸術大学 病院アウトリーチ・プロジェクト スーパーバイザー)

日時 2017年11月30日(木) 18:00～19:30

場所 愛知県立芸術大学 演奏棟 大演奏室 A

カーティス音楽院は、アメリカ東部の歴史的な都市フィラデルフィアに1924年に創立された音楽学校で、世界中から才能のある若者が集まる有名校である。レベルが非常に高く、少数先鋭で学生全員に奨学金が全額支給されるが、入学は極めて難しい。

ジャヴィアン先生は、カーティス音楽院のカリキュラムに、必修科目として〈ソーシャル・アントレプレナー〉の授業を立ち上げた方である。アントレプレナー Entrepreneur とは、直訳すると“起業家”という意味で、狭義には、いわゆるベンチャー企業のような会社を立ち上げる者を指しているが、ここで言う“ソーシャル・アントレプレナー”とは、社会的に自立した芸術家／音楽家を“起業家”として位置付けることを意味しており、音楽家の社会的役割を全面に打ち出す概念であると言えよう。

今回ジャヴィアン先生をお招きしたのは、本学で今年度に立ち上げられた〈病院アウトリーチ・プロジェクト〉が、カーティス音楽院のプログラムをモデル

にしているからであった。エリートの集合であるカーティス音楽院の、明るい将来が保障されているかに見える学生に〈ソーシャル・アントレプレナー〉の授業が必修として課されていることの意義は大きく、このプログラムは、今日の社会における音楽家のあり方に、大きな波紋を投じているかのようにも思えた。

以下は、ジャヴィアン先生の講演を要約したものである。

1. ソーシャル・アントレプレナー

今日最も成功しているプロフェッショナルな音楽家は、芸術に根ざしたプロジェクトを考案し、それを実施するにあたって、あらゆる層の聴衆により深く関わっていくための方法を理解している。カーティス音楽院の学生は、地域に根ざしたプロジェクト—人の人生に意味ある影響を与えるようなこと—を実践することによって、そのようなスキルを身につけていく。そのプロセスにおいて、彼らは、“芸術的市民”となり、彼らが身につけている世界的なレベルの芸術性を、聴衆に深い影響を与えるものへと発展させていくのである。

このカリキュラムは、次の3つの段階から構成されている。

① 〈ソーシャル・アントレプレナー〉

半期の授業、全学生が必修。コミュニティにおけるコラボレーションを通して、社会的価値を創造し、維持することを教育する。

② 〈コミュニティ・アーティスト・プログラム = CAP〉

次世代のクラシック音楽界を牽引する人材育成を目的とするプログラムで、上記の授業を履修した学生が参加できる。CAPの参加者は、斬新かつ啓発的な、コミュニティにおける市民のためのとしてのユニークなパフォーマンス（演奏）のプロジェクトを起案し、実施する。プロジェクトには予算がつけられており、必要な経費をそれによって賄うことができる。

③ 〈コミュニティ・アーティスト・フェローシップ〉

これは、カーティス音楽院の地域貢献を強化するものであり、カーティス音

楽院の卒業生は、このプログラムを通して、フィラデルフィア市内の恵まれないコミュニティーに彼らの芸術を届ける。プログラムの参加者は、上記のCAPで立ち上げたプログラムを継続することもできる。カーティス・コミュニティー・アーティスト・フェローは、練習や演奏活動とのバランスを取りながら、カーティス音楽院の学校、病院、刑務所、リハビリセンター等との提携に基づいて社会的活動を展開する。また、CAPのプロジェクトのメンター（指導員）として、プログラムを支える。

学生は、まず①を履修し、そのうえで②CAPに参加することができ、卒業後は③へ進むことができる。

2. 病院アウトリーチ

過去6年間で、カーティス音楽院は、病院、アルツハイマー病センター、リハビリテーション病院やホスピスなど、医療を提供する7つの組織と提携を結んでおり、病院へのアウトリーチ活動は、さまざまな形態で行なわれている。

まず、〈ソーシャル・アントレプレナー〉の授業の一部として、学生が病院に赴いて演奏する場合もある。また、CAPのプロジェクトのひとつで、ある学生が、病室で新生児のためにアイリッシュハープを演奏するプロジェクトを実施したところ、新生児に対して絶大な癒しの効果がみられ、その学生が卒業したあとも、病院からの要請で、このプロジェクトは継続されることになった。その他、さまざまなプロジェクトが実施されているが、病院の場合、聴衆（患者さん、あるいはその家族、医療関係者など）、演奏する空間など、さまざまな状況に合わせて、臨機応変に内容を擦り合わせていく必要がある。

3. まとめ

カーティス音楽院の場合、ソーシャル・アントレプレナーとしての活動の場は多岐にわたっており、病院のほか、貧困層の生徒が多数を占める学校や、刑務所なども含まれる。今回は、カーティス・コミュニティー・アーティスト・フェローのひとりである今村望さんが、ジャヴィアン先生に同行して来日し、特別講座にも来てくださった。彼は、トランペット奏者としての演奏活動の合

間に、フェローとして高校で吹奏楽の指導を行い、また CAP のメンター（指導員）としてプログラムを支えている。

今回の特別講座では、カーティス音楽院による、病院アウトリーチ等を含む、音大生を社会へ繋いでいくための教育の実態が、非常に具体的なこととして理解できた。〈ソーシャル・アントレプレナー〉の活動は、単なる社会貢献ではなく、「音楽は社会を良くすることができる」という信念に基づいたものであり、演奏家にとっての演奏の意義を問うものであった。

メアリー・ウィーロック・ジャヴィアン先生 プロフィール



カーティス音楽院でハロルド・ロビンソンに師事し、1999年同院を卒業。2011年にコミュニティ・アート・プログラムを立ち上げるためにカーティスの教員となり、2014年には同プログラムのコミュニティ活動担当ディレクターに就任。

芸術家としてのジャヴィアンの目標は、音楽を用いて地域社会にポジティブな変化をもたらすことである。その目標に向かい彼女は演奏家、キュレーター、

ティーチング・アーティストさらには指導者（メンター）として活動している。

コントラバス奏者としては、フィラデルフィア管弦楽団、IRIS オーケストラなど国内の様々な楽団と頻繁に共演している。